

## - 北陸港湾空港 -

## 伏木富山港の機能強化が進んでいます！ ～コンテナ取扱能力の拡大～

### 1. はじめに

伏木富山港は、本州日本海側沿岸の中心部に位置し、その恵まれた地理的条件により、古くから日本海側の重要な港として栄えてきた。伏木、富山、新湊の3地区から形成され、富山県を中心に北陸地方の物流拠点として重要な役割を果たしている。

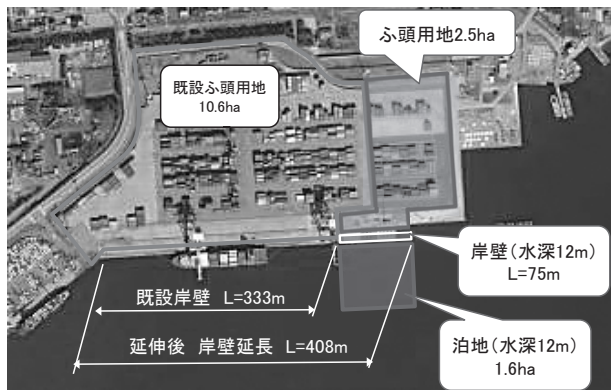
新湊地区は富山県射水市・高岡市に位置し、伏木富山港全体の約6割の貨物を取り扱っている。中でも、伏木富山港（新湊地区）国際物流ターミナルは、伏木富山港で唯一コンテナ貨物を扱っており、ロシア・中国・韓国を中心とした対岸諸国との国際物流の拠点として背後圏の経済活動を支えている。

しかし、近年、コンテナ船の大型化が進展し、大型コンテナ船の入港が重なりと接岸するための岸壁延長が不足するため、港外で入港を待機する沖待ちが発生するなど、港湾利用に支障が生じていた。

このような背景から、「国際物流ターミナル延伸整備事業」に平成27年度より工事着手している。

### 2. 事業概要

本事業は、既設岸壁延長333mを75m延伸し、延長408mを確保することで1.2万トン級の大型コンテナ船の2隻同時接岸を可能とし、富山県（港湾管理者）が整備するふ頭用地の拡張と併せてコンテナ取扱能力を強化することを目的としている。



国際物流ターミナル延伸整備事業概要

早期の完成を図るため、岸壁は、既設護岸を活用した栈橋構造を採用した。施工にあたっては、軟弱な地盤性状であり、地盤改良による構造安定性能の

確保や泊地浚渫時の濁り抑制対策など、施工条件に対応しつつ、岸壁延伸整備とふ頭用地の拡張を同時並行で行うなどの整備進捗を図り、令和元年6月に完成、8月に供用開始を迎えることができた。

また、岸壁の長寿命化を図るため、新技術を導入している。栈橋上部のプレキャスト床版を取り外し可能な構造とした「リプレイサブル栈橋」を一部区間で導入し、調査・点検の効率化、維持管理・補修コストの削減を図っている。

### 3. 完成式典の開催

令和元年6月30日、国際物流ターミナル内で北陸地方整備局・富山県主催の完成式典を開催し、地元選出国會議員、富山県知事、自治体首長、港湾利用者等の関係者80名が出席した。式典当日には、大型コンテナ船2隻が岸壁に並んで接岸し、事業完成による効果を広くPRすることができた。

### 4. おわりに

本事業の完成、供用開始に伴い、大型コンテナ船の2隻同時接岸が可能となり、背後に整備されたふ頭用地と一体的に運用されることで、コンテナ取扱能力の拡大による荷役作業の効率化、輸送コストの削減が図られ、地域産業の発展に大きく貢献できるものと期待している。

最後に、本事業の推進にあたり、関係者の皆様には、多大なるご尽力を賜りましたことに、厚く御礼申し上げます。



大型コンテナ船の2隻同時接岸（完成式典当日）

国土交通省 北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所 後藤 佑介